

写真提供：上越市小川未明文学館



ギャラリー
展

小川未明文学賞25周年記念フォーラム

小川未明と早稲田の児童文学

新潟県上越市で生まれた小川未明は、早稲田の学び舎で坪内逍遙などの薫陶を受けます。

その早稲田大学からは、坪田謙治、浜田広介、今西祐行、大石真、寺村輝夫、後藤童二、萩原規子・・・と枚挙にいとまがないほどの児童文学作家が輩出されています。集まり散じて人は違えど、仰ぐは同じき理想の文学。その早稲田に脈々と伝わる児童文学の系譜と、25周年を迎え、海外にも数多く翻訳出版されている小川未明文学賞の輝かしい軌跡を紹介します。

小川未明（おがわ・みめい）一八八二―一九六一年

小川未明は、早稲田大学在学中から小説を書きはじめました。卒業後、雑誌『少年文庫』の編集にたずさわり、童話も書くようになります。一九〇七年に第一小説集『愁人』を、一九一〇年に第一童話集『赤い船』を刊行します。未明は、新浪漫主義の小説家でありながら、社会主義思想にも近づいていきます。一九二六年に感想『今後を童話作家に』を発表後は、小説の筆を折って、童話に専念し、生涯に二〇〇編ほどの童話を創作しました。



アクセス | 都バス [学02] (高田馬場駅発~早大正門行) 早大正門停留所下車すぐ
東京メトロ東西線 早稲田駅から徒歩5分

2016年10月10日(月祝)
~10月17日(月)

10時~18時 | 入場無料・日曜休館
会場 | ワセダギャラリー

お問い合わせ | 早稲田大学文化推進部文化企画課

TEL : 03-5272-4783

E-MAIL : art-culture@list.waseda.jp

主催：早稲田大学文化推進部文化企画課
新潟県上越市、小川未明文学賞委員会

協力：銚学研プラス

後援：日本児童文学者協会、日本児童文芸家協会

早稲田文化
芸術週間